

第5章 事故防止等に向けて

1 各種刊行物の発行

運輸安全委員会では、個別の報告書に加えて、各種刊行物を作成し、公表しています。

各種刊行物は、ホームページに掲載するとともに、広く皆様に活用していただくため、ご希望の方へ「運輸安全委員会メールマガジン」配信サービスによる案内を行っています。

メールマガジン配信サービスは、航空・鉄道・船舶関係事業者、行政機関、教育・研究機関など多くの方に活用いただいています。

また、運輸安全委員会からの情報発信のあり方について、事業者等と意見交換を行っています。今後とも、頂いたご意見等を参考にして改善を図って参ります。

委員会HP画面

運輸安全委員会
Japan Transport Safety Board

国土交通省

ENGLISH

Google®カスタム検索

運輸安全委員会トップページ > 各種刊行物

各種刊行物

- 運輸安全委員会ダイジェスト
 - 第16号(平成27年1月27日発行)
 - 英語版 Digest of Aircraft Accident
- 運輸安全委員会年報
 - 2014年版(平成26年6月発行)
 - 英語版 JTSB Annual Report 2014
- 地方事務所における分析
- IMO(国際海事機関)における海上事
- 運輸安全委員会ニュースレター
- 旧海難審判庁の刊行物

『各種刊行物の閲覧』
『メールマガジン配信サービスの登録』は、
運輸安全委員会ホームページから行えますので、是非ご利用ください。
URL : <http://www.mlit.go.jp/jtsb/>

メルマガ配信サービス

運輸安全委員会メールマガジンについて

このメールマガジンは、委員長の定例記者会見、事故等調査報告書の公表及び刊行物の紹介を中心に様々な情報を提供するものです。毎月1回、テキスト形式で配信します。配信サービスは無料(通信料金を除く)でご利用いただけます。配信サービスのご利用に当たっては、事前に下記の「注意事項」をお読みいただき、ご了承のうえ登録をお願いします。

各メニューをクリック

2 運輸安全委員会ダイジェストの発行

運輸安全委員会では、事故の再発防止・啓発に向け、皆様のお役に立てていただくことを目的として、各種統計に基づく分析やご紹介すべき事故事例を掲載した「運輸安全委員会ダイジェスト」を発行しています。

また、海外向け情報発信の充実に向けた「JTSB Digests (運輸安全委員会ダイジェスト英語版)」も発行しています。

平成26年には、「運輸安全委員会ダイジェスト」を4回発行(2, 4, 6, 8月、12-15号)するとともに、「JTSB Digests (運輸安全委員会ダイジェスト英語版)」を2回発行(4, 11月)しました。

各号の内容は、以下のとおりです。

① 運輸安全委員会ダイジェスト第12号[鉄道・船舶事故分析集]「大雨・大雪・強風等に関連する事故の防止に向けて」(平成26年2月26日発行)

- ・発生状況
- ・事故調査事例(鉄道)「大雨により斜面が崩壊し、線路内に堆積した土砂等に乗上げて脱線」
- ・事故調査事例(鉄道)「強風による波しぶきを受けパンタグラフの絶縁抵抗が低下したため、アーク放電の熱により火災が発生」
- ・事故調査事例(船舶)「貨物船が台風による風波を受けて走錨、圧流され、護岸に衝突」
- ・事故調査事例(船舶)「突風によりダイビング船の錨索が切断し、圧流されてさんご礁に乗揚げ」



② 運輸安全委員会ダイジェスト第13号[船舶事故分析集]「船首方の視界制限による衝突事故の防止に向けて」(平成26年4月23日発行)

- ・発生状況
- ・事故調査事例「船首浮上により約90°の範囲の死角が生じた状態で航行中に衝突」
- ・事故調査事例「右回頭中に船首方の死角に入った漁船と死角から出てきた別の漁船を誤認し、直進して衝突」
- ・事故調査事例「船首死角に入ったモーターボートがレーダーの船首輝線に紛れて気付かずに衝突」
- ・事故調査事例「船首が浮上する途中で前方に他船はいないと思い、船首を振らずに航行中に衝突」



③ 運輸安全委員会ダイジェスト第14号[船舶事故分析集]「輻輳海域における衝突事故の防止に向けて」(平成26年6月25日発行)

- ・発生状況
- ・事故調査事例「もやがかかった状況下で目視だけで見張りをを行い、他船がないものと思い込み衝突」
- ・事故調査事例「適切な見張りを行わずに航行し、前路を横切れると思い込み衝突」
- ・事故調査事例「A船及びB船が見張りを行わずに衝突した後、A船が惰力で右回頭中にC船と衝突」
- ・事故調査事例「南流時の来島海峡航路西口において、入航船と出航船の進路が交差する状況で衝突」



④ 運輸安全委員会ダイジェスト第15号[航空事故分析集]「機体動揺に伴う事故の防止に向けて」(平成26年8月27日発行)

- ・発生状況
- ・事故調査事例「対流雲域において降下飛行中、大気の擾乱に遭遇した際、機体が動揺して乗客及び乗務員が負傷」
- ・事故調査事例「局地的に発生した晴天乱気流により機体が動揺し、客室乗務員1名が重傷を負ったほか、4名が軽傷を負った」
- ・事故調査事例「急激に発達した積乱雲に進入して乱気流に遭遇し、機



体の動揺により客室乗務員が負傷」

・事故調査事例「激しい大気の擾乱に遭遇し、機体が大きく動揺して乗客が重軽傷を負った」

⑤ For Prevention of Helicopter Accidents（平成26年4月23日発行）

⑥ For prevention of “Collision Accidents in Congested Areas”（平成26年11月25日発行）

3 地方版分析集の発行

運輸安全委員会では、各地方事務所が、その管轄区域内で調査した船舶事故に関して、それぞれ特色のある海域、船種、事故の種類など、テーマを絞って分析を行い、船舶事故等の防止に関する各種の情報提供を行うため、地方版分析集として発行しています。

（平成26年発行の地方版分析集）

函 館	ハザードマップで見る船舶事故の状況
仙 台	猪苗代湖における船舶事故
神 戸	自分で防ぎたいミニボートの思わぬ事故
長 崎	平戸瀬戸 夜間の北航船は田平港の防波堤に注意！
那 覇	さんご礁海域における漁船乗揚事故の状況

個々の地方版分析集を読んで地方の事故事情を知るだけでなく、新たな事故防止のヒントが見えてくるかもしれません。

各地方事務所では、更に内容の充実を図りながら、今後も定期的に地方版分析集の発行に取り組んでまいります。

4 運輸安全委員会年報の発行

平成26年6月に、平成25年の活動全般を紹介することにより事故等の教訓を広く共有するため、年次報告書として「運輸安全委員会年報 2014」を発行しました。

また、海外に向けた情報発信への取り組みの一環として、同年報に記載のトピックを海外の方々に知っていただくため、平成26年10月に、英語版年報

「JAPAN TRANSPORT SAFETY BOARD ANNUAL REPORT 2014」を発行しました。



コラム ミニボートの事故等の発生状況

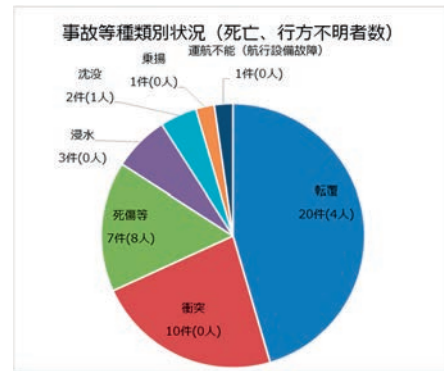
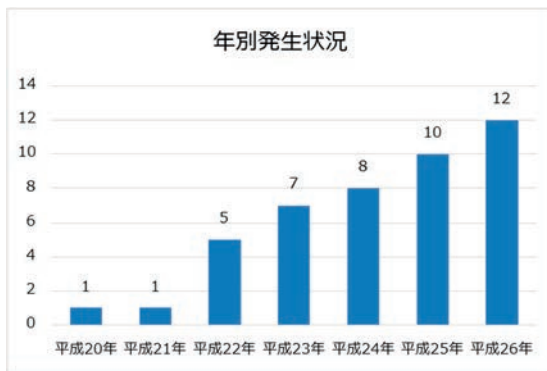
事故防止分析官

近年、マリンレジャーへの関心の高まりに伴い、船舶検査及び小型船舶操縦免許が不要で手軽に楽しめるミニボート（長さ 3m 未満、エンジン出力 1.5kW 未満の小型船舶）の普及が急速に進んでいますが、一方でミニボートによる事故も増加傾向にあります。

運輸安全委員会が、平成 20 年 10 月から平成 26 年 12 月までに調査対象としたミニボートの事故等の発生状況は、次のとおりでした。

1 年別・事故等種類別の発生状況

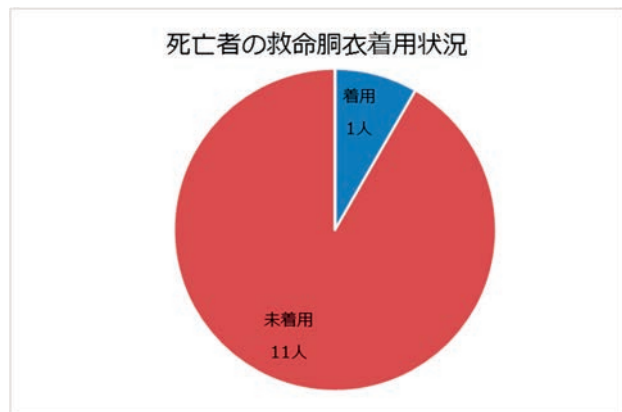
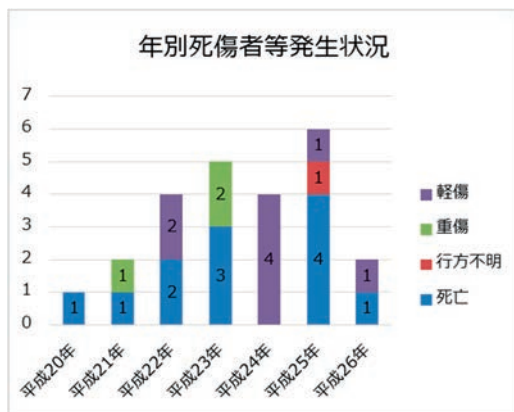
上記期間に調査対象とした 44 件について、年別に発生状況を見ると、下図のとおりで増加傾向にあります。また、事故等種類別の発生状況を見ると、転覆、他船との衝突、死傷等（転覆や衝突等他の事故によらないもの）の順となっています。



2 死亡、行方不明、負傷者の発生状況

これらの事故により、12 人が死亡し、1 人が行方不明となっており、11 人が負傷しています。

死亡した 12 人について、当時の救命胴衣着用状況を見ると、約 9 割に当たる 11 人が着用していませんでした。



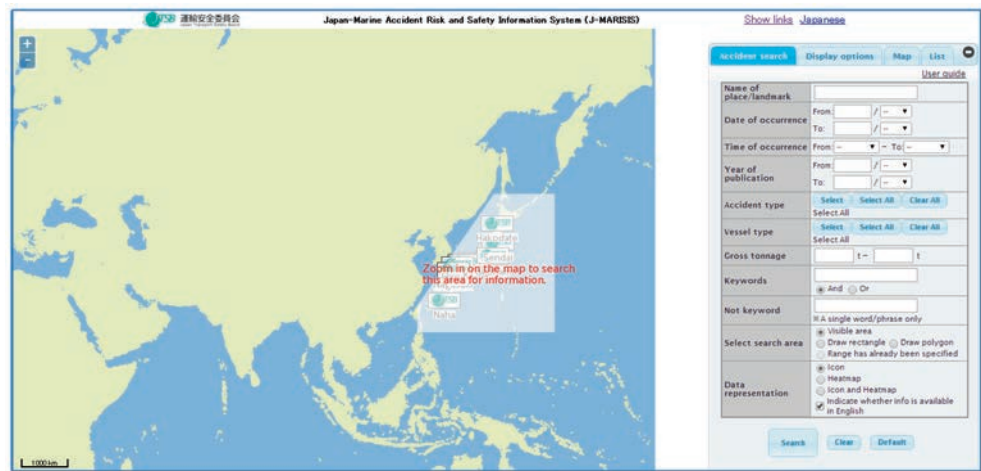
ミニボートは、小型・軽量のため波を受けると浸水、転覆しやすいので、救命胴衣の常時着用を心掛けてください。

5 船舶事故ハザードマップ・グローバル版 ～国際的な事故情報の共有～

運輸安全委員会は、公表した船舶事故等報告書を有効に活用していただくため、地図上から報告書を検索できる「船舶事故ハザードマップ」をインターネットサービスとして、平成25年5月末から提供を始めました。

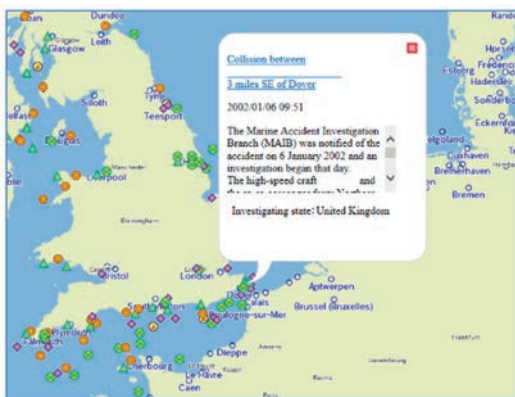
同年9月からは英語版の運用を開始したところですが、ご利用者から国内だけでなく海外を航行する際、予定航行海域で発生した船舶事故の情報も知りたいとのご要望を受け、平成26年4月から外国の船舶事故調査機関が公表している調査報告書を検索できるようにした「船舶事故ハザードマップ・グローバル版」(J-MARISIS:Japan-Marine Accident Risk and Safety Information System)を公開しました。

諸外国の船舶事故情報については、これまでの各種国際会議等において、我が国の船舶事故ハザードマップを紹介し、イギリス、カナダ、オーストラリア、アメリカ、フランス、ニュージーランド、オランダ、ドイツ、インドネシア、バハマ及びノルウェーの11か国の賛同を得てデータを提供していただき、現在、各国の事故調査機関が公表している約600件の調査報告書を検索できるようになりました。

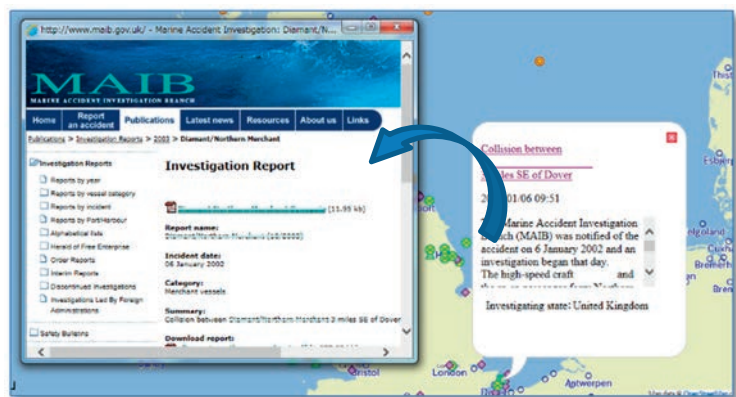


グローバル版のトップ画面

J-MARISISでは、発生年月、事故種類、船舶種類、総トン数、キーワード等による検索が可能で、画面の事故等マークをクリックすると事故名、発生年月日、事故概要、調査国の情報を見ることができ、さらに、事故名をクリックすると各国の事故調査機関の報告書にリンクするようになっています。



事故情報の概要表示例



英国の事故調査報告書のホームページ表示例

コラム

船舶事故ハザードマップモバイル版の公開について

事故防止分析官

運輸安全委員会では、平成 25 年 5 月から船舶事故ハザードマップを公開していますが、最近のインターネットサイトの利用状況を見ると、スマートフォンやタブレットによるものが増えており、ユーザーからスマートフォンでも見やすいようにして欲しいとのご要望があったことから、平成 27 年 6 月末にモバイル版を公開しました。

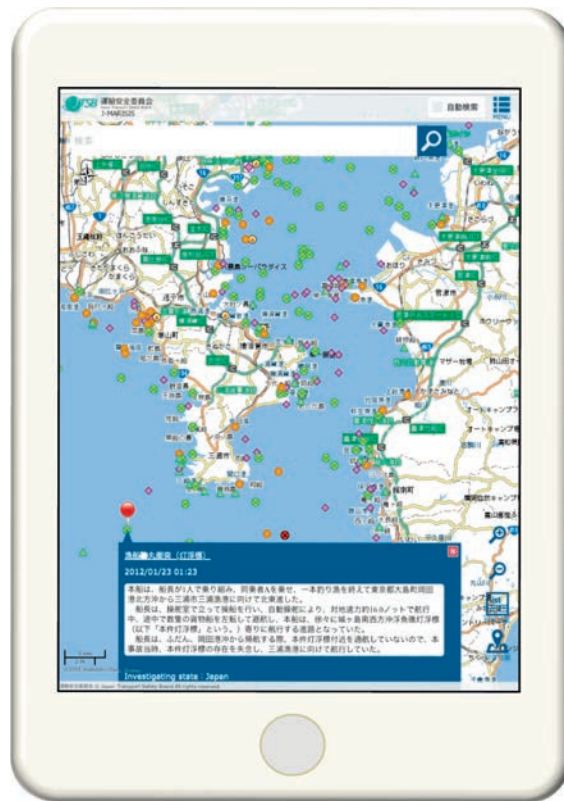
これは、スマートフォン用にブラウザベースの Web アプリケーションとして開発したもので、パソコン版とほぼ同様の船舶事故情報等を閲覧できるようになっています。

また、各端末のGPS機能を利用して現在地付近の情報を表示することもできますので、出航前に予定航行海域における船舶事故情報や気象・海象の情報等を確認していただき、安全運航に役立てていただければ幸いです。

今後とも、皆様からのご意見、ご要望をお聞きしてさらに内容の充実を図ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



現在地付近の情報を表示した画面



事故情報を表示した画面

アドレス : <http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/mobile/index.html>



6 出前講座（講習会等への講師派遣）

運輸安全委員会では、私たちの行っている業務についてももっと知っていただくとともに、皆さんのご意見やナマの声を聞かせていただく場として平成26年4月から「出前講座」をスタートさせました。

講師を派遣できる講座としては、航空・鉄道・船舶の事故等の防止、被害の軽減に役立てていただく話で、各種講演会や学校等へ職員を講師として派遣しています。

申込み方法は、運輸安全委員会のホームページをご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/demaekouza.html>



出前講座の様子

出前講座一覧

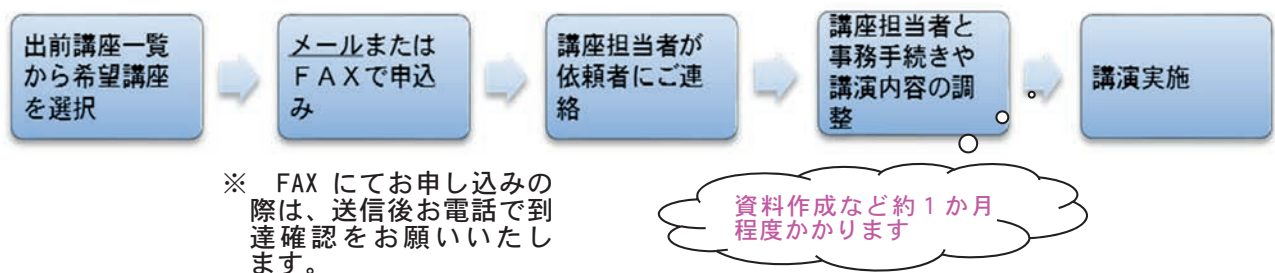
No.	講座名	主な対象	講座内容
1	運輸安全委員会について	一般(高校生以上) 運輸関係事業者等	運輸安全委員の組織経緯、業務などについてわかりやすく説明します。
2	事故調査って何だろう？	小学生	小学生以上の子供に「事故調査」についてわかりやすく説明します。
3	航空事故調査について	一般(高校生以上) 航空関係事業者等	航空事故調査について、その経緯や具体例などを交えて説明します。
4	鉄道事故調査について	一般(高校生以上) 鉄道関係事業者等	鉄道事故調査について、その経緯や具体例などを交えて説明します。
5	船舶事故調査について	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	船舶事故調査について、その経緯や具体例などを交えて説明します。
6	運輸安全委員会ダイジェストについて	一般(高校生以上) 運輸関係事業者等	これまでに発行した運輸安全委員会ダイジェストをもとに、各モード横断的に事故等事例紹介や各種統計資料についての解説を行います。
7	運輸安全委員会ダイジェスト(航空事故分析集)について	一般(高校生以上) 航空関係事業者等	運輸安全委員会ダイジェストにおいて、航空事故分析集として扱った各テーマについて解説を行います。
8	運輸安全委員会ダイジェスト(鉄道事故分析集)について	一般(高校生以上) 鉄道関係事業者等	運輸安全委員会ダイジェストにおいて、鉄道事故分析集として扱った各テーマについて解説を行います。
9	運輸安全委員会ダイジェスト(船舶事故分析集)について	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	運輸安全委員会ダイジェストにおいて、船舶事故分析集として扱った各テーマについて解説を行います。
10	船舶事故発生の傾向と再発防止について	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「船舶事故ハザードマップ」を用いて、船舶事故の多発する海域やリスクについて図解し、事故防止対策について説明します。
11	北海道沿岸における船舶間衝突事故の状況[函館事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「北海道沿岸における船舶間衝突事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
12	漁船乗組員が死傷した事故の状況[仙台事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「漁船乗組員が死傷した事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
13	浜名湖及び浜名湖今切口におけるプレジャーボート事故の状況[横浜事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「浜名湖及び浜名湖今切口におけるプレジャーボート事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
14	水上オートバイ あなたが楽しむその前に[神戸事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「水上オートバイ あなたが楽しむその前に」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。

15	瀬戸内海における乗揚事故の状況[広島事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「瀬戸内海における乗揚事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
16	関門港における乗揚事故の状況[門司事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「関門港における乗揚事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
17	平戸瀬戸における乗揚事故の状況[長崎事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「平戸瀬戸における乗揚事故の状況」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。
18	レジャー船事故の再発防止に向けて[那覇事務所]	一般(高校生以上) 海事関係事業者等	「レジャー船事故の再発防止に向けて」について、地方版分析集を用いてわかりやすく説明します。

※ご希望に応じて他のテーマの内容の講演を行うこともできますので、運輸安全委員会ダイジェスト及び地方版分析集のページもご参考にしてください。

※NO. 11～18は、原則、地方事務所の管轄区域のご依頼に限らせていただきます。

お申し込みから講演実施までのフローチャート



7 事故被害者情報連絡室の活動状況等

運輸安全委員会では、被害者やそのご家族、ご遺族の心情に十分配慮し、事故調査に関する情報を適時適切に提供するとともに、ご意見などに丁寧に対応することを目的に、平成23年4月、被害者等への事故調査情報提供窓口を設置し、さらに情報提供を推進するため、平成24年4月に、訓令上の組織として「事故被害者情報連絡室」を設置し、地方事務所にも情報提供窓口を置き、東京と一体的に対応しています。

平成26年は、航空・鉄道・船舶事故24件の被害者等55名の方へ事故調査等の情報提供を行いました。

また、その他の活動状況等は次のとおりです。

○『JR福知山線脱線事故「追悼と安全のつどい2014」』への参加

平成17年4月25日に福知山線列車脱線事故が発生して10年目を迎える平成26年4月25日、「追悼と安全のつどい2014～JR西日本安全フォローアップ会議のまとめ・到達点～」が開催されました。

ご遺族から、ご自身がお遺族であるという立場と検証チームの一員であるという両方の立場での葛藤についてご講演があり、事故の検証作業においては、「なぜこんな事故が」というご遺族等が共通に抱く疑問がテーマともなっており、全容が明らかになっていくことが思いを癒やす一助となっているとのお話を受け、ご遺族等への事故調査報告書をはじめとする調査に関する情報提供の重要性を再認識しました。

○御巢鷹山慰霊登山

事務局職員の事故再発防止への意識を高めるとともに、運輸安全委員会の業務及び使命について理解を深めるため、平成26年7月及び9月、日本航空123便墜落事故現場である群馬県多野郡上野村の御巢鷹山へ慰霊登山を行いました。

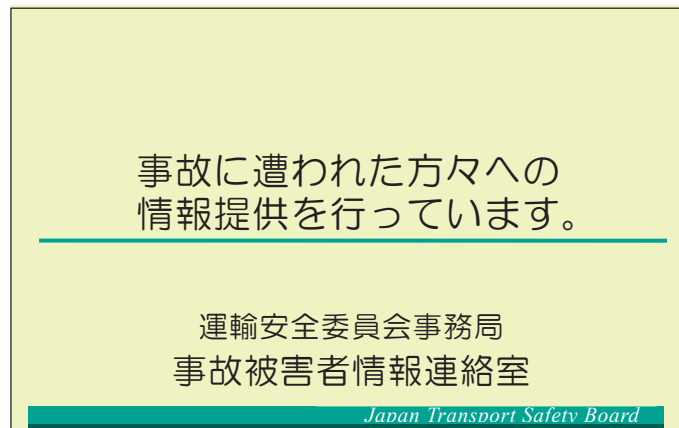
国内で発生した最大の航空機事故現場である御巢鷹山において、「昇魂之碑」及び「スゲノ沢」を慰霊することにより、今なおつらい思いをされている被害者やご遺族の思いに触れ、被害者等の方々の置かれた立場や心情に寄り添うことの重要性を再認識しました。



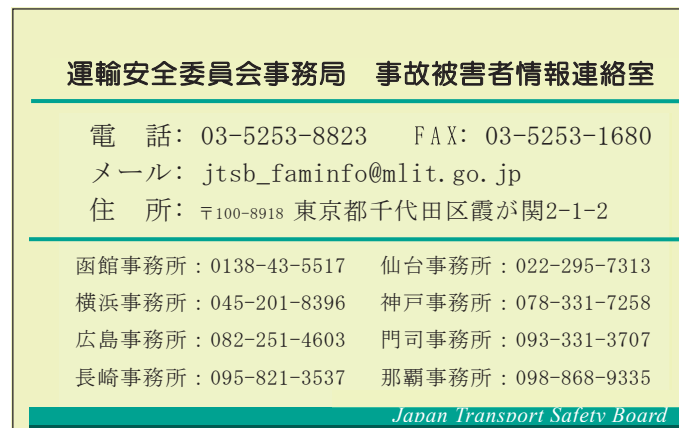
御巢鷹山慰霊登山の様子

事故被害者情報連絡室では、事故被害者等へ「連絡先伝達カード」をお渡ししています。事故の被害者及びそのご家族・ご遺族の皆様からの事故調査に関するお気づきの点などについて、お話を伺っていますので、下記連絡先までお気軽にご連絡を頂けましたら幸いです。

連絡先伝達カード



(表)



(裏)

コラム

安全に関する情報発信
～小型船舶操縦者への注意喚起～

事故防止分析官

運輸安全委員会では、安全に資する様々な情報発信の取組みを行っています。

その取組みの一環として、大型船と小型船の衝突事故が発生していることに鑑み、注意喚起のためのリーフレットを作成いたしました。小型船舶を操縦する方々を対象に、留意すべき大型船の特性など操縦における注意点をまとめた内容となっています。

作成したリーフレットは、少しでも多くの人手に渡るよう、関係団体や全国のマリナーに配布の協力を呼びかけるとともに、海関連のイベント会場でも配布を行うなど積極的な周知活動を行いました。このリーフレットが、手にしていただいた方々にとっての「気付き」となり、海の安全に活かされていくことを期待しています。

また、イベント会場での周知活動は、来場者の反応を見、声を聴くことが出来る貴重な機会でもありました。

リーフレットを手取る方の中には、熱心に事故情報の入手方法などを質問される方や、安全確保のためのご意見をお聞かせくださった方もおられ、人々が「安全」に対して無関心では無いこと、「安全」に関する情報を求めていることを強く実感しました。委員会としては、このような機会をとらまえ、人々の反応やご意見からニーズを読み取り、それを情報としてフィードバックしていく、そんな双方向の情報発信が求められているのだと考えています。

小型船舶を操縦する皆様へ // JTSB 運輸安全委員会
Japan Transport Safety Board

大型船と小型船の衝突事故が発生しています!

平成26年1月、広島県大竹市阿多田島東方沖で大型の目衛艦と小型のプレジャーボートが衝突し、プレジャーボートの乗船者2人が亡くなる事故が発生しました。
この衝突事故は、プレジャーボートが針路を案えて目衛艦の船首至近に接近し、目衛艦が回避動作をとったところ、更に両船が接近したものと考えられます。

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(平成27(2015)年2月9日公表)
http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acc/2015/MA2015-2-1_2014tk0001.pdf

**大型船には次のような特性があります。
このような特性を十分理解して安全運航に努めましょう。**

- 1 旋回性能が小型船舶と大きく異なります**
運動性能が低く、かじ効が悪いので、すぐに曲がりません。
すぐに止まることもできません。
- 2 見かけより高速で航行していることがあります**
十分離れていると思っても、気付いたらすぐ近くにいる場合があります。
また、引き波(航走波)も大きく、吸引作用が働いて近くのを引き寄せることがあります。
- 3 船首が高く、前方の死角が大きい場合があります**
大型船舶の船橋から、小型船舶が見えないこともあります。
- 4 喫水が深いため、水深が浅い水域では航行できません**
航路の外側を航行できないなど、航行する水域が制限されます。

小型船舶は航行中の大型船舶にできるだけ近寄らないようにしましょう。
また、沖で大型船舶に遭遇したら、早めに距離をとり、道路を横切るような航行はできるだけやめましょう。

小型船舶注意喚起リーフレット



イベント (JAPAN BOATSHOW2015) 会場での周知活動